

— 錦織 佳代子 —

2月13日(木)
うすぐもり 松山へ

GeOriaさんと松山城に登る。今治は寒かったけど、途中で上着を脱ぐ、歩くと暑い。



20分くらいで登るのでよく行きます。ロープウェイ、リフトもある。

上着の

若い観光客多い

ロープウェイ街を歩い？
古本屋で終刊になった雑誌「銀花」をみつけた。50円



GeOria coffee

上のは場所は幼稚園児が100人余りもみんな口々にあーいっしょしてくる。遠足マ、マスマス



天ぷら屋
カウンター席で揚げ立てを次々のせてくれた
おいしい

天ぷら定食うん4は800円

各地で記録的な大雪、被害も甚大、雪もこわいですね。

ホークビーンズ⁰⁰⁰大豆はといても体にいい特に丸ごと食べるのが
名古屋の桑原さん(91才)に頂いた「大豆料理100種」から、作りました。かんたん、おいしい。(友の会)

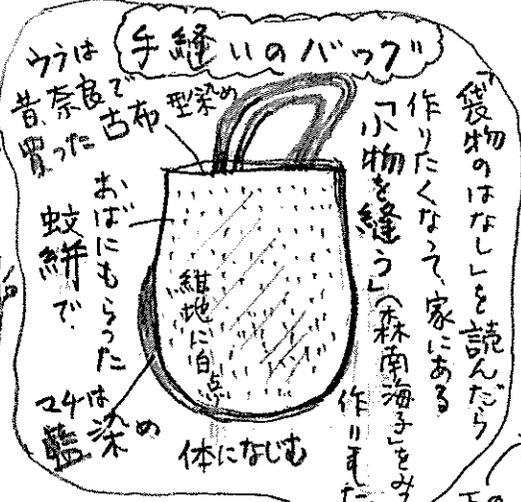
ゆで大豆 2カップ
ベーコン 80g
玉葱 100g
粉 小2
水 本カップ
フライオン 1個

① ベーコン、玉ねぎみじん切り、
② ベーコンと炒め油が出たら玉ねぎをお通るまで炒め粉をふる。
③ 大豆をいれ、おと炒め、水、フライオン
④ を入れ、フタをしきいてしばらく煮る。コシが少なくなる。

④ トマト4つ、オリーブオイル、ワイン大1、ウスターソース小1

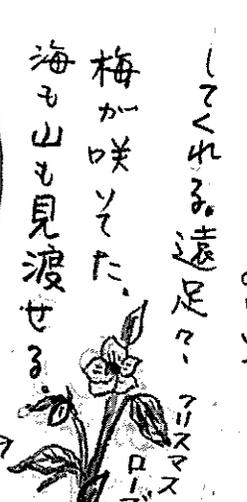


お弁当にも



「袋物のはなし」を読んだら作りたくなう、家にある小物を縫う。(森南海子さんの作りかた)

手縫いのバッグ
おばにももらった
蚊帳で
24は藍染



梅が咲いた、海も山も見渡せる。



さくら温泉
高齢者300円
肌さかりのいいお湯
この日、わたしの60代最後の日、いい一日になりました。夕飯は

読書ノート

● ケストナーの「ほらばき男爵」 池内紀 訳
泉千穂子 訳
絵 ウィルヘルム・トイヤ
ホルスト・レムケ 筑摩書房

脳ミソをすっかり空っぽにしてから読もう。常識の詰まった頭では楽しめない。ケストナーにあって再話されたドンキホーテやカリバー旅行記などの物語が書き手と訳者と挿絵によって年齢を越えて楽しませてくれる。娘たちに読んでやりたかったなあ。ナチスの時代に焚書があった。ケストナーの著書もドイツ国内で出版禁止。二度にわたり、ゲシュタポに逮捕されたという。

● 冬虫夏草 梨木香歩・新潮社

久しぶりの香歩さん。「家守奇譚」の続きの話。駆け出し物書き綿貫征四郎。鈴鹿の山奥深く愛犬「ゴロー」を探して旅をする。時代は大正？しめり気と帯びた山、川、滝や神社のある風景。人の姿としかつげやいわや天狗にもすんなり溶け込む。経済発展？世界一に？防衛？ああそんなことと無縁な世界もある。心がゆるんでくる。

● 袋物のはなし 森南海子 未来社

「読書休日(森まゆみ)にあった本。—「再念でござはり」した文章に心がほどけてくる。見かけの豊かさ、インスタント、使い捨ての時代に、まっとうな暮らしを手放すまいという決意を感じる—。私も南海子さんのファン。著書を何冊か大切に持っている。子育てのころこれらの本を頼りにしました。日々の暮らし方について。

愛媛県美術館「洲之内徹と現代画廊」展で長谷川謙二郎の「猫」に再会。ゆくり向き合う

サフランの花が今にも咲きそう。赤い花びら

長野のやすえさん「日頃から食糧を備えて大丈夫か」